

市民の土木賞 市民と歩む土木の業績部門

奨励賞

地域の特性を活かした水辺空間づくり（唐川ふるさと砂防事業）

本町は日本最古の官道である竹内街道や、聖徳太子御廟をはじめ、敏達、用明、推古、孝徳の各天皇陵からなる梅鉢御陵を中心に、飛鳥時代の古墳が群集する貴重な歴史的文化的財の豊かな町であります。唐川は本町の東部地域を流れ、金剛・葛城山系の二上山に水源を發し、一級河川飛鳥川、石川、大和川を経て大阪湾に注ぐ流路延長2.1km、流域面積1.9平方キロメートルの砂防河川です。唐川周辺は金剛生駒紀泉国定公園を中心として緑豊かな森林に恵まれ、自然環境を活かした二上山万葉の森、ダイヤモンドトレール、町立スポーツ公園などが整備されており、周辺の"まちづくり"の一環として唐川の水辺空間づくりを進めてきました。本事業を実施するに当たり唐川の砂防土砂対策の整備を推進すると共に本町の歴史的イメージを取り入れた地域に密着した親しみと潤いのある水辺空間の整備を目指すため、砂防、植生、生物生態、歴史等の学識経験者よりなる検討委員会を設置しました。検討委員会では唐川の状況把握を行い、基本テーマ及び基本方針を決定し、現地調査を行ないながら整備計画を策定しました。まず、人が安心して暮らせるように治水機能を充実するとともに、住民と生活が調和する安全な"かわ、"づくりを行ないました。具体的には、現況断面では5年確立雨量しか対応できないため、平均降雨強度77.7m/hrの100年確立雨量に対応できる断面を確保しました。次に生物にやさしい"かわ、"づくりを目指し、在来工法の護岸工（柳枝工、編柵工、空石積工）及び環境林等を採用し、生態系に配慮することにより、ホタルやトンボが生息する溪流づくりを行ないました。又、植物が容易に生育でき、溪流に近づけるように緩勾配の法面とし、人と自然とがふれあい、散歩する人の心をなごませ万葉を学ぶ溪流づくりを行ない魅力ある水辺空間の創出に努めました。整備方針に基づいた採用工法が地域特性を考慮した結果、事業進捗に伴い、ホタルの生息が確認され、地域住民よりホタルの保護・育成を行い、生息域の環境を保全したいとの機運が高まり、地域のボランティア団体「唐川ホタルを守る会」が設立されました。会では唐川に生息するホタルの保護・育成活動、河川の美化清掃活動、幼稚園、小・中学校の自然環境学習支援など精力的に行なわれており、平成18年4月6日に、河川の美化活動に取り組む団体として、府下で初めて砂防施設による「アドブトリバー唐川ホタルを守る会」の認定を受けました。「唐川ホタルを守る会」の定期的な清掃活動や適切な植生の維持管理の結果、年々、6月から7月の期間中はホタルがたくさん飛び交い、幻想的な夜のひとときは訪れる人々を魅了し、住民との協働による魅力ある水辺空間に生まれ変わった唐川では賑わいと交流が生まれています。唐川のホタルは太子町の財産として末永く守り育てたいと云う住民が年々増えており、今年も沢山の幼虫、餌となるカワナナの生息が会員により確認されています。

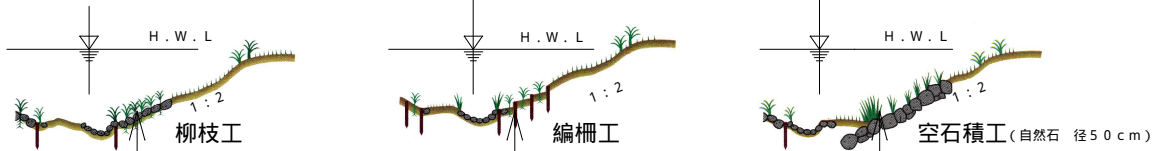
今、本町では自分たちのまちを自分たちの手で良くしていこうと住民の協働によるまちづくりの機運が高まっています。花のまちづくりの会などたくさんのボランティア団体が活動されています。これらの住民の活動が本町のまちづくりに大いに寄与するものと考えており、こういった機運のきっかけづくりが「唐川ホタルを守る会」の活動成果であり、唐川ふるさと砂防事業の最大の事業効果であります。

（主な事業概要）

施工延長 L = 738.8m
 護岸工（空石積工他 4138㎡ 柳枝工 383㎡ 編柵工 75m） 堰堤工 1箇所 自然石張り 橋梁工 3橋 木橋 帯工 6箇所 自然石張り
 落差工 10箇所 自然石張り 低々水路工 480m 植栽工 一式

（標準断面図）

生態系に配慮し、在来工法を採用しました。



タニウツギ、ヤブウツギ、イヌツゲ、キリンバイを交互に植栽。人が寄らない箇所にはヤナギ（アカメヤナギ）を植栽。

植物が容易に生育でき、どこからでも溪流に近づけ降りることができるように緩勾配の法面としました。

水衝部及び落差工の前後に用いました。



応募者名	大阪府南河内郡太子町 建設部 建設農林課
事業実施場所	大阪府南河内郡太子町大字山田地内
期間	平成 8年 4月（工事着手） 平成 18年 3月 31日（事業完了）